

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報(Y2)

平1-40833

⑬ Int. Cl.⁴

B 65 D

5/74

5/08

5/40

識別記号

庁内整理番号

B-6671-3E

Z-6540-3E

Z-6540-3E

⑭ 公告 平成1年(1989)12月5日

(全4頁)

⑮ 考案の名称 液体容器

⑯ 実 願 昭60-115780 ✓

⑰ 公 開 昭62-25623

⑱ 出 願 昭60(1985)7月27日

⑲ 昭62(1987)2月17日

⑳ 考 案 者 山 田 均 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

㉑ 出 願 人 凸版印刷株式会社 東京都台東区台東1丁目5番1号

㉒ 審 査 官 天 野 正 景

㉓ 参 考 文 献 実開 昭61-161216 (JP, U) 実開 昭62-76115 (JP, U)

実開 昭54-90326 (JP, U)

1

2

㉔ 実用新案登録請求の範囲

ブランクスは、

イ 糊付パネル21、側部パネル22、前部パネル23、側部パネル24、後部パネル25を縦折目を介して順次連設し、

ロ 前記前部パネル23の胴部、頂部は下方から前部パネル23、折目f、g、hを介してそれぞれ注出口取付用孔29を有する傾斜板26、頂部折込板27、シール板28が順次連設され、

ハ かつ前記側部パネル22、24は前記傾斜板26の両側に三角板30、31を設けると共に、該三角板30、31の長い折目j、j'から上方の折目1、1'まで延びる折目m、m'、また折目1、1'と折目m、m'の交点C、C'から折目gの両端に延びる折目q、q'および前記三角板30、31の頂点E、E'から水平に延びる折目k、k'と側部パネル22、24側端の交点D、D'まで延びる折目n、n'を有し、かつ上部に段差を有する帯状のシール板34、35を備え、

ニ 前記イ、ロ及びハの構成を有するブランクスを四角柱状に形成し、シール板28と39、34と35それぞれを合掌して一文字にシール後、前記頂部折込板27を前方に折り、両側に形成された三角形の耳部5、6を両側に折り込み固定した傾斜壁を有し頂部が平坦な液体容器。

考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、紙を主材料としたブランクスを折り込んで形成した液体容器で、特に注出口付でしかも頂部を平らにした液体容器に関する。

(従来技術)

一般に、ジュース、牛乳、アルコール等の液体の容器として、紙を主材料としたブランクスを角筒体として、その角筒体の底部と頂部を折込んで密封したものが広く使用されている。これらの液体容器としては、頂部を屋根型とした、いわゆるゲーベルツブタイプと、頂部と平らにしたフラットタイプとがある。また、最近では再封可能などを目的として、予め穿孔された孔に注出口を取り付けた液体容器が開発されている。

(解決しようとする問題点)

上記ゲーベルツブタイプの容器は、頂部が屋根型であるため、スタッキングが不可能であり、流通段階で余分のスペースを必要としていた。また、フラットタイプの容器は、そのままの状態では頂部が平らなためスタッキングが可能であるが、頂部等に注出口を取り付けると、やはりスタッキングができないという問題点があった。

(問題点を解決する手段)

本考案は上記問題点を解消したもので、ブランクスは、

イ 糊付パネル21、側部パネル22、前部パネル23、側部パネル24、後部パネル25を縦

(2)

実公 平 1-40833

3

4

折目を介して順次連設し、

ロ 前記前部パネル 2 3 の胴部、頂部は下方から前部パネル 2 3、折目 f、g、h を介してそれぞれ注出口取付用孔 2 9 を有する傾斜板 2 6、頂部折込板 2 7、シール板 2 8 が順次連設され、

ハ かつ前記側部パネル 2 2、2 4 は前記傾斜板 2 6 の両側に三角板 3 0、3 1 を設けると共に、該三角板 3 0、3 1 の長い折目 j、j' から上方の折目 1、1' まで延びる折目 m、m'、また折目 1、1' と折目 m、m' の交点 C、C' から折目 g の両端に延びる折目 q、q' および側部パネル 2 2、2 4 側端の交点 D、D' まで延びる折目 n、n' を有し、かつ上部に段差を有する帯状のシール板 3 4、3 5 を備え、

ニ 前記イ、ロ及びハの構成を有するブラックスを四角柱状に形成し、シール板 2 8 と 3 9、3 4 と 3 5 それぞれを合掌して一文字にシール後、前記頂部折込板 2 7 を前方に折り、両側に形成された三角形の耳部 5、6 を両側に折り込み固定した傾斜壁を有し頂部が平坦な液体容器を提供するものである。

(実施例)

以下、本考案を図面に示した実施例を用いて詳細に説明する。

第 1 図は本考案の液体容器の一実施例を示す斜視図であり、第 2 図は組立前の状態を示すブラックスである。本考案の液体容器の特徴は角筒体の胴部 1 で、その頂部 2 が平坦であり、しかも胴部 1 の一面に傾斜壁 3 を設けたもので、この傾斜壁 3 に注出口 1 0 1 等を取り付け可能としたものである。第 1 図の液体容器の組立前のブラックスを第 2 図を用いて説明すると、前記傾斜壁 3 を設ける部分を前面として、左より糊付パネル 1 1、側部パネル 1 2、前部パネル 1 3、側部パネル 1 4、後部パネル 1 5 が縦折目 a、b、c、d を介して順次連設されている。上記糊付パネル 1 1 と後部パネル 1 5 とを貼着して、角筒状としその下方および上方を密封折込むことにより底部 4 および頂部 2 を形成するもので、該糊付パネル 1 1 と各パネル 1 2 ~ 1 5 の横折目 e 以下は通常の底部を形成するための底板 1 6 ~ 2 0 が設けられている。この各底板 1 6 ~ 2 0 の上方にはそれぞれ糊付片 2 1、側板 2 2、前板 2 3、側板 2 4、後板

2 5 が設けられ、前板 2 3 は他の各板に比して高さが低くなっている。該前板 2 3 の上方には折目 f を介して傾斜板 2 6 が設けられ、その上方には折目 g を介して頂部折込板 2 7、折目 h を介して帯状のシール板 2 9 が順に連設されている。ここで該傾斜板 2 6 には注出口を取り付けるための孔 2 9 が穿設されている。次に該傾斜板 2 6 の両脇には、その両側縁 b'、c' を底辺とした三角板 3 0、3 1 が前記側部パネル 1 2 および 1 4 内に設けられ、斜辺折目を i、j、i'、j' とし、頂点を E、E' とする。また前記側板 2 2 と 2 4 の上縁折目 k、k' はこの頂点 E を通り、この折目 k、k' の上方には折畳板 3 2、3 3、その上方には折目 1、1' を介して帯状のシール板 3 4、3 5 が連設されている。この折畳板 3 2、3 3 は前記折目 1、1' の中点 C、C' から点 D、D'、E、E'、F、F' へ放射状に延びた折目 m、n、q、m'、n'、q' により四つの三角形に区分されている。ここで折目 m、m' と、前記三角板 3 0、3 1 の斜辺折目 j、j' とは一直線上ととし、斜辺折目 j、j' の端部を点 H、H' とする。そして、折目 m、n と折目 m'、n' の長さは $m < n$ 、 $m' < n'$ とする。また前記シール板 3 4、3 5 には前記中点 C を通る小折目 p、p' により 2 分され、その内側部分は前記前部パネル 1 3 のシール板 2 8 と同じ巾で、外側部分は少し広い巾に設けてある。さらに前記糊付板 2 1 上方にも折目 q、r を介して順次折込板 3 6 シール板 3 7 が連設され、後板 2 5 の上方にも折目 s、t を介して、頂板 3 8 およびシール板 3 9 が連設されている。

次に上記ブラックスの組立方法を説明すると、前記糊付パネル 1 1 を後部パネル 1 5 に貼着した後、角筒体とし、第 3 図所望の手段で底部を密封し、形成する。次に前記小折目 p、p' より横方向に広げて、対面したシール板 2 8、3 4'、3 5' とシール板 3 9、3 9、3 5 を貼着する。第 4 図次に頂板 3 8 と頂部折込板 2 7 を重ね、さらにこの重合部を頂板 3 8 が上にくるように折曲げると、前記三角板 3 0、3 1 が側板 2 2、2 9 の内側に重なり、傾斜壁 3 が形成され折畳板 3 2、3 3 は第 5 図に示すように耳部 5、6 を形成する。

次にこの耳部 5、6 を下方に折曲げ側板 2 2、2 4 上部に接着することにより成形が完了する

(3)

実公 平 1-40833

5

6

(第1図)。この時、シール板34、35は段差があるのでその裏面の一部分を接着することも可能である。

ここで、上記実施例のブランクスとしては、主と主材料として、アルミ箔、合成樹脂等を積層したシートから打抜き、折目付けをしたものを使用する。ここで各折目の位置関係は、前記折目fの位置を決定し、前記折目h、h'と折目m、m'のなす角度をしたとき、前記折目m、m'と折目i、i'のなす角度をとしてF、F'を決定し、該F、F'を水平線で結び折目gが決定され、さらに折目n、n'も同様に決定される。

(効果)

本考案は、上記の如き構成であつて、頂部の平

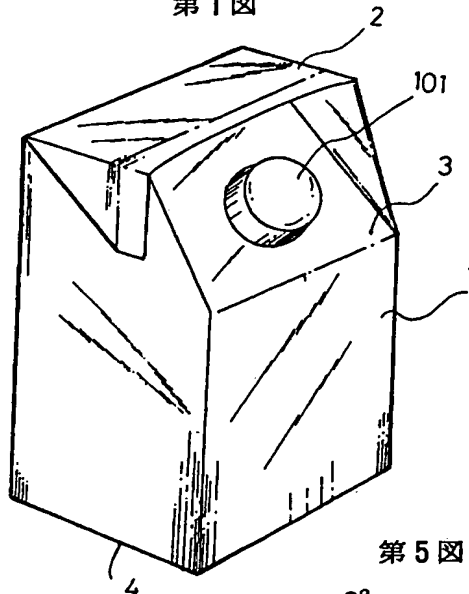
らな容器胴部の一面に傾斜壁を設け、この傾斜壁に注出口を設けることにより注出口が突出することがないので、流通段階でスタッキング可能なため余分なスペースを必要としない。

5 図面の簡単な説明

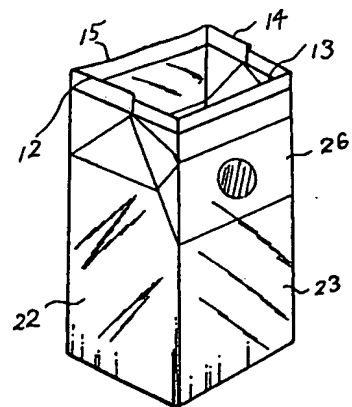
図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は液体容器の斜視図、第2図は組立前のブランクスの展開図、第3図～第5図は組立工程中の一部省略斜視説明図である。

1……胴部、2……頂部、3……傾斜壁、4……底部、21……糊付パネル、22……側部パネル、23……前部パネル、24……側部パネル、25……後部パネル、26……傾斜板、30、31……三角板。

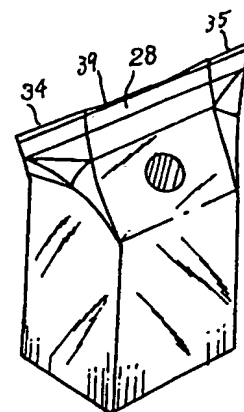
第1図



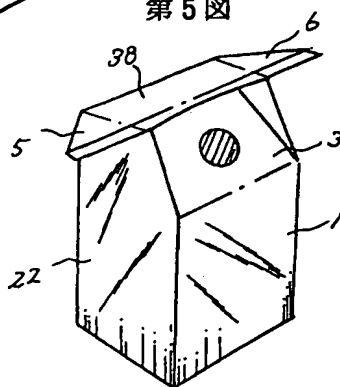
第3図



第4図



第5図



第2図

